

今日の説教のポイント <マタイによる福音書 26 章 31~35 節>

- ①「するとペトロが、『たとえ、みんながあなたにつまずいても、わたしは決してつまずきません』と言った。イエスは言われた、『はっきり言うておく。あなたは今夜、鶏が鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう』。ペトロは、『たとえ、ご一緒に死ななければならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません』と言った。弟子たちも皆、同じように言った。」(33~35)

「あなたがたのうちの一人が私を裏切ろうとしている」(21)。イエス様が弟子たちにそう告げられた最後の晩餐の後、「今夜、あなたがたは皆わたしにつまずく」(31)と言われました。ペトロはそれに対して、熱く、「たとえ他の弟子たちみんながつまずいても、たとえ一緒に死ななくてはならなくなっても、私だけはあなたを裏切りません」、と誓ったのです。この時のペトロの思いに嘘はありません。ペトロだけではない、他の弟子たちも皆そう言ったのです。しかし、それから数時間後、彼らは兵隊に捕まるイエス様を見捨てて逃げ去ったのです(56)。さらに、この時、ペトロに主イエスは、「あなたは今夜、鶏が鳴く前に、三度わたしのことを知らないと言うだろう」(34)と告げられ、果たしてその通りになったのです(70,72,74)。

このペトロとは誰でしょうか？ 彼は、イエス様に告げられた通り三度主を否んだ後、鶏の鳴き声を聞き、イエス様が言われたことを思い出して激しく泣きました(75)。このペトロは私たち自身なのではないでしょうか。熱く誓う時もある。しかもその時は本気でそう思っている。しかし誘惑や不安に弱く、気がつけば誓ったことを破ってしまって、後悔してもいる自分。イエス様を裏切った情けないペトロは私たちと関係ないのではなく、彼は私たちを代表しているのです！

- ②「イエスを裏切ったユダは、イエスに有罪の判決が降ったのを知って後悔し、…ユダは銀貨を神殿に投げ込んで立ち去り、首をつって死んだ」(27:3~5)

問題は、ユダとペトロの違いです。ユダは首をつって死んでしまいました。しかし神様の前ではペトロの罪も同様に重い。なのにユダは自殺し、ペトロは初代教会の長とされていった。その違いは何なのでしょう？ 私たちは、「私はユダか、ペトロか」と考えるよりも、ペトロの道を行くためにはどうしたらいいのかを考えなければなりません。ユダは死ぬ道を神に問わず、自分で選び、実行しました。「自分でけりをつけた」のです。ペトロは死ぬこともできないほど呆然と立ち尽くしていた中で、そんな自分を赦すと言って下さる復活の主と出会い、その主のために全てを捧げて尽くす新たな道を歩み出したのです。カール・バルトは、「ユダの後継ぎとしてのパウロ」について語っています。つまり、イエスを裏切ったユダがその後に歩むべきであったはずの姿を示す役割を担っているのがパウロであると。それはペトロにも当てはまると思います。私たちはユダの後に続いてはならないのです。神様の赦しを受け入れて歩み出したペトロやパウロの後に続かなければならないし、また続くことが神様から赦されているのです。大きな恵み、大きな感謝です。